

September 16, 2020

【前日の為替概況】ユーロドル、5日ぶり反落 1.19ドル台に定着できず手仕舞い進む

15日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは5営業日ぶりに反落。終値は1.1847ドルと前営業日NY終値(1.1866ドル)と比べて0.0019ドル程度のユーロ安水準だった。アジア・欧州時間に1.19ドル台の定着に失敗したこともあり、NY時間は売られる展開となった。23時のNYカットで期限を迎える1.1850ドルのオプションに絡んだ売りが持ち込まれたほか、23時以降も手仕舞い売りが散見され、一時1.1840ドルまで下げ足を速めた。その後、売りは一服したものの戻りは1.1850ドル台までにとどまるなど、反発力は弱かった。

ドル円は続落。終値は105.44円と前営業日NY終値(105.73円)と比べて29銭程度のドル安水準だった。欧州時間からの売りの流れが継続し、NY序盤にはクロス円の下落とともに一時105.30円まで売りに押された。一方、105円にかけて買いが目立つなか、その後は105円台半ばでのみ合いが続いた。

なお、世界貿易機関(WTO)の紛争処理パネルは、2018年に米国が中国製品に課した関税措置は国際貿易ルールに違反しているとの判断を示した。これに対し米通商代表部(USTR)からは、「WTOは中国の不正行為に対して何の対処もしていない」などの見解が示された。

ユーロ円も続落。終値は124.91円と前営業日NY終値(125.44円)と比べて53銭程度のユーロ安水準だった。ユーロドルが失速するとユーロクロスもつれ安となったため、ユーロ円は一時124.76円まで値を下げた。全般ユーロ売りの流れが落ち着くと一時125円台を回復する場面も見られたが、戻りは限定的だった。

【本日の東京為替見通し】本日の欧州時間以後と明日のイベントを前に動きにくい展開となるか

本日のドル円は引き続きレンジ取引は変わらないか。今週に入りドル円はじり安になってはいるが、大きく円高に傾くようなニュースなどもないことで、引き続き105円台を中心としたレンジトレードが続くそう。菅自民党総裁が本日正式に首相に指名されることになるが、大きく政策が変わることを期待することもできず、新政権発足でもドル円が動くことも考えにくい。

特に本日の欧州入り後から明日まで注目イベントが目白押しであることで、本日は欧州勢が参入するまでは限られた値動きになる可能性が高い。

本日は日本時間15時に英国から8月消費者物価指数(CPI)をはじめ複数の経済指標が発表される。明日17日の英中銀金融政策委員会(MPC)の結果発表を前に、経済指標次第ではマイナス金利などの早期導入などへの期待感も高まるかもしれない。英国の場合は、本日と来週21-22日に国内市場法案について議会で話し合われることや、今週から新型コロナウイルスの規制が更に厳格化(イングランドでは6人を超えて集うことの禁止など)されたことなど、ポンドは様々な要因で神経質な値動きになりそう。

また、本日は米連邦公開市場委員会(FOMC)の政策金利発表や、パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長の定例記者会見が行われる。ジャクソンホール会議でのパウエル議長の発言で、ある程度の今後のFRBの指針を垣間見ることができたため、それほど大きく動かない可能性もあるが、予期せぬ発言が出てくる可能性もあるので警戒は怠らないようにはしておきたい。

明日は4-6月期NZ国内総生産(GDP)、8月豪雇用統計の発表があることでオセアニア通貨が乱高下する可能性も高い。また、上記英MPC以外にも、南ア準備銀行(SARB)もMPCを開くことで、ランドの値動きにも注目が集まる。

なお、昨日ペロシ米下院議長がCNBCのインタビューで、(過半数を占める)下院民主党が新型コロナウイルス感染症対策のための追加救済法案が合意できるまで議会に残ることに言及している。暫定的な法案可決になる可能性もあるが、法案の動向次第では株式市場やその動きに連れて為替市場も動く可能性があるため、注目しておきたい。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◎ 8月貿易統計（通関ベース、予想：季節調整前 375 億円の赤字、季節調整済 233 億円の黒字）
- 臨時国会で首相指名選挙
- 日銀金融政策決定会合（1 日目）

<海外>

- 15:00 ◎ 8月英消費者物価指数（CPI、予想：前月比▲0.6%／前年比横ばい）
 - ◎ CPI コア指数（予想：前年比 0.6%）
 - ◇ 小売物価指数（RPI、予想：前月比▲0.3%／前年比 0.6%）
- 15:00 ◎ 8月英卸売物価指数（PPI、食品とエネルギーを除くコア指数、予想：前年比横ばい）
- 18:00 ◇ 7月ユーロ圏貿易収支（予想：季節調整前なし／季節調整済 193 億ユーロの黒字）
- 18:30 ◎ デコス・スペイン中銀総裁、講演
- 20:00 ◇ MBA 住宅ローン申請指数
- 20:00 ◇ 7月南アフリカ小売売上高（予想：前年同月比▲5.0%）
- 20:00 ◎ レーン ECB 専務理事兼チーフ・エコノミスト、ウェブセミナーに参加
- 21:30 ◇ 7月対カナダ証券投資
- 21:30 ◎ 8月カナダ CPI（予想：前月比 0.1%／前年比 0.4%）
- 21:30 ☆ 8月米小売売上高（予想：前月比 1.0%／自動車を除く前月比 0.9%）
- 23:00 ◇ 7月米企業在庫（予想：前月比 0.1%）
- 23:00 ◎ 9月全米ホームビルダー協会（NAHB）住宅市場指数（予想：78）
- 23:30 ◇ EIA 週間在庫統計
- 24:00 ◎ ホルツマン・オーストリア中銀総裁、講演
- 17日 03:00 ☆ 米連邦公開市場委員会（FOMC）、終了後政策金利発表（予想：0.00－0.25%で据え置き）
- 17日 03:30 ☆ パウエル米連邦準備理事会（FRB）議長、定例記者会見
- 17日 05:00 ◎ 7月対米証券投資動向
- 未定 ☆ ブラジル中銀、政策金利発表（予想：2.00%で据え置き）
- 英中銀金融政策委員会（英 MPC、17 日まで）
- メキシコ（独立記念日）、休場

17日

<国内>

- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）

<海外>

- 07:45 ☆ 4－6 月期 NZ 国内総生産（GDP）
- 10:30 ◎ 8月豪雇用統計（失業率／新規雇用者数）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

15日 18:10 パネッタ欧州中央銀行(ECB)専務理事
「ECBは、インフレに対して油断なく警戒すべき」

15日 23:13 世界貿易機関(WTO)
「中国に対する米国の関税は貿易ルールに違反」

15日 23:28 ペロシ米下院議長(米民主党)
「議員達は追加コロナ対策が合意するまで居残る準備はできている」

16日 00:13 中国商務省
「米国がWTOルールを完全に尊重し、多国間貿易システムを維持するための実践的な行動を取ることを望む」

16日 00:23 米通商代表部(USTR)
「WTOの決定、米中・第1段階の貿易合意への影響はない」
「WTOは中国の不正行為に対して何の対処もしていない」
「不公正な貿易慣行に対して、自らで防御しなければならない」

16日 01:17 トランプ米大統領
「(アラブ諸国のうち)他にも5、6カ国がイスラエルと国交正常化で合意するかもしれない」

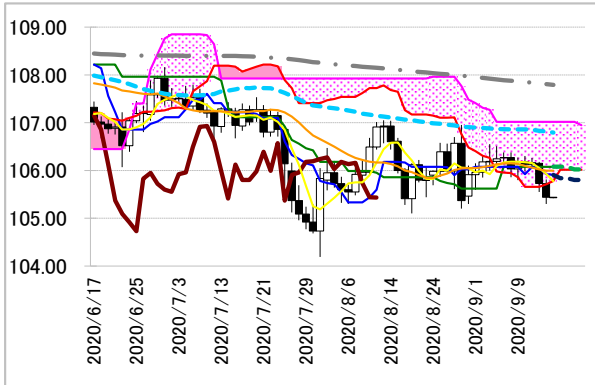
16日 02:12 スナク英財務相
「とても厳しい交渉だが、EUとの通商合意を望む」
「国内市場法案はEUと合意に至らなかった場合の必要な政策」

16日 03:18 欧州連合(EU)外交筋
「英EU交渉は上手くいっていないが、EU側は最終的な合意への希望は失っていない」
「国際法違反とされる国内市場法案が英議会で可決されれば、EUは英と合意できない」

16日 05:03 トランプ米大統領
「WTOに関して何らかの対処する可能性、対中関税に関する決定を受け」
「次にイスラエルと国交正常化するのはサウジと考える」

※時間は日本時間

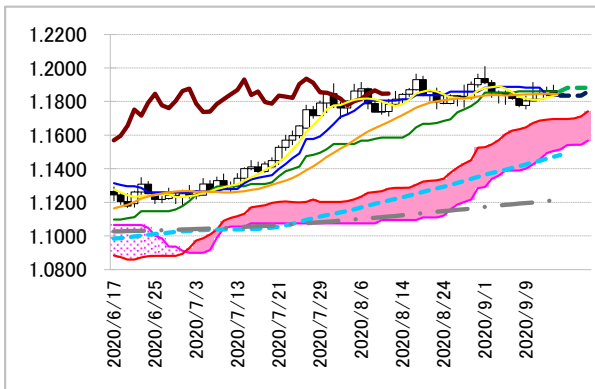
〔日足一目均衡表分析〕



<ドル円=5日線付近も重そう>

下影陰線引け。一目均衡表・雲を下回る水準で戻りが鈍い。雲の下限は上昇中で、雲の形状に沿うような反発の可能性はある。しかし、下値を広げたため、想定済みだった一目・転換線 105.91 円や基準線 106.08 円に加えて、105.78 円前後で低下中の 5 日移動平均線付近も抵抗になりやすくなった。

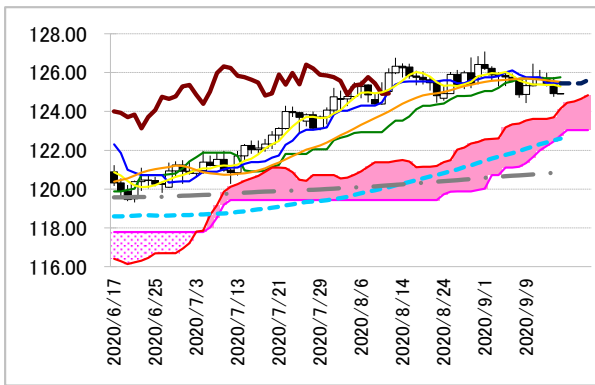
レジスタンス 1	105.91(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	105.44
サポート 1	104.80(8/28 下落幅による N 計算値)
サポート 2	104.19(7/31 安値)



<ユーロドル=転換・基準線は回復し峻のじり高の流れ維持>

上影小陰線引け。1.1835 ドルへ低下した一目均衡表・転換線が示唆する重い動きだった。しかし、1.1861 ドルで横ばいの一目・基準線から大きく放れるまでの弱さではない。基準線は明日にも 1.1882 ドルへ小幅に上昇。転換線も 22 日から水準を切り上げる流れを維持しており、相場が緩やかに回復する可能性を残している。

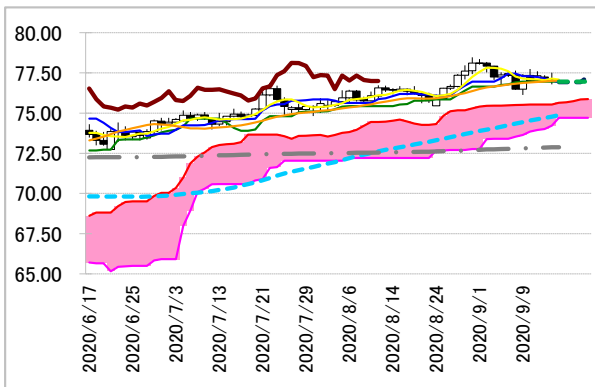
レジスタンス 1	1.1900(9/15 高値)
前日終値	1.1847
サポート 1	1.1801(9/10 安値)



<ユーロ円=雲のサポート試す展開か>

上影陰線引け。一目均衡表・転換線 125.45 円は、一目・基準線 125.76 円を割り込んで推移し、売り地合いを示している。両線を下回るさえない相場展開となった。両線はしばらく横ばい。戻り局面の重しとなる。転換線は来週にも一時水準を回復する可能性を残しているが、足もとの相場下押しもあって、低下の流れをすぐさま再開の見込み。弱い動きのなかで、一目・雲の上限のサポートを試すことになる。

レジスタンス 1	125.76(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	124.91
サポート 1	124.13(日足一目均衡表・雲の上限)



<豪ドル円=転換線・基準線付近から上方向を狙う様相>

極小陰線引け。動きは乏しく、一目均衡表・転換線 76.93 円、基準線 76.96 円が推移するレンジ付近で次の方向をうかがう状態が続いている。上下どちらに分があるか判然としませんが、基準線が横ばい、転換線がじり高の可能性を示していることから、上方向との見方ができる。

レジスタンス 1	77.51(9/15 高値)
前日終値	76.99
サポート 1	76.38(ピボット・サポート 2)

